

S h i r a n u k a



議会だよりしらぬか

No. 144

2019.4.25

春笑一刻値千金

【アントキノシツギ】

スポーツ助成条例等は適用
拡大が必要 ほか2件

【予算審査特別委員会】

待望の新消防庁舎に16億円

【傍聴席から】 古場菜月さん

子どもたちの頑張りが
泣けるほど嬉しい

平成 31 年度一般会計予算 過去最大 **115** 億円

待望の

新
消防庁舎に16億円

平成 31 年度の一般会計当初予算は、子育て施策への支援を継続しつつ、基本設計等を行っていた消防庁舎の改築にかかる建設予算 16 億 5488 万円を計上し、過去最大となる 115 億 2800 万円となりました。

新年度予算について審査した予算審査特別委員会（3月11日から13日にかけて開催）での主な質疑をお知らせします。
（予算の内容は3月25日発行の町広報をご覧ください）

道路・施設整備

問 橋北から和天別に続く振内線の完成はいつ頃になるのか。
答 圏計画では平成32年度に完了する予定だが、国の補助金配分が要望に対して3割から4割で推移していることから、このままだと平成35年頃になる。

問 白糠の跨線橋の工事について、白糠駅舎の改築との兼ね合いはどうなるのか。

答 31年度は委託設計で、実施時期についてはその数年後になる。階段部分の腐食がひどく、駅舎の建て替えまでに持たない可能性があることから、補修を計画している。

問 庶路の跨線橋の工事内容は。

答 30年度にJRと協定を結び、31年度に補修工事を実施。橋脚2基を残して階段部分等は全て入れ替えを予定している。

JR敷地内の工事はJRに対して町が負担金を支出して実施する。※西庶路跨線橋については庶路跨線橋の工事が終了後。

問 泊別集会所の解体時期はいつになるのか。

答 5月の連休明けに入札し、その後に期間を決定する。

問 西庶路コミュニケーションセンターの備品が古い。更新計画はあるか。
答 かなり老朽化しており、今後計画的に入れ替えを行いたい。

問 改築する鉄北集会所の大きさは？ また木材はどれほど使用するのか。

答 使用実態に合わせて現在の196平方メートルから130平方メートルに縮小する。

木造の平屋建てで、極力地域材を使用したい。

問 中学校と高校の間の道路改良について、歩道の改良は行わないのか。
答 圏車道のみを計画しているが、歩道の現状も確認しており今後改良を検討したい。

防災・防犯

問 新しい消防庁舎の屋上は避難場所になるのか。津波がきたときにやりすごせるくらいの構造物になっているのか。

答 3階に会議室が三つあり、そこを一時避難所とする。さらに屋外にもギャラリーとして避難場所を用意している。電気関係も屋上に設置し、高さは役場の3階と同じくらいになる。

問 2台予定している防犯カメラはどこに設置するのか。

答 栄橋付近と庶路2号橋付近。いずれも民家がとだえて薄暗くなる場所。その他の増設については今後費用対効果等を考えて検討する。

問 更新する小型動力ポンプ付水槽自動車の大きさ等は。

答 現在のものよりも1メートルほど長い。9メートル30センチ。22トン車。

問 2月3日に橋北地区において夜間の避難訓練が実施されたが、他の地区でも今後実施するのか。

答 器具的な予定はないが、今後も実施していきたい。

補助・助成

利便性

問 ウレシパチセの使用、特に調理室について、アイヌの方ばかりではなく、もう少し門戸を開いてはどうか。

答 アイヌ協会と協議検討していきたい。

問 環境整備補助金について、実態として環境被害があるのか。もうそのような時代ではない。

答 町内処分場から飛散するゴミを町内会で処理している。見直しについては過去からの経過もあり、当時と状況は変化しているがもう少し時間をもらいたい。

問 コンビニ収納が始まるが、すべてのコンビニが対象になるのか。いつから開始するのか。

答 町内はもろろの事、全国の主要なコンビニで納付が可能。開始時期については4月以降に発行する納付書から利用できる。

問 婚活事業を開始するようだが、どのような内容なのか。

答 町内の男性に参加してもらい、町内および町外の女性との出会いの場を年間2回ほど実施したい。時期は9月から11月頃を予定している。

問 助成を考えると振興協会への助成を考えているが、実際にやる事業は実行委員会を組成してその中でやることになる。

答 町内の男性に参加してもらい、町内および町外の女性との出会いの場を年間2回ほど実施したい。時期は9月から11月頃を予定している。

第1回 定例会

平成31年第1回定例会は3月5日に開会し、特別委員会を挟んで同13日に閉会しました。初日は町政執行方針、教育行政方針、一般質問を行いました。2日目は補正予算と条例改正等、3日目は新年度予算の審査を特別委員会に付託し、最終日は付託した予算案を可決、その他条例改正等を審議・可決し閉会しました。

30年度補正予算

◆寄付者に感謝、ふるさと納税12億円を補正

一般会計補正予算において、ふるさと納税の関係予算で12億円、除雪経費で4000万円、バス路線の維持対策で1063万7千円、肉用牛管理業務で231万3千円、道営草地整備事業負担金で1250万円、荷さばき施設等改築事業補助金で2578万7千円、消防団救助用

◆除雪経費

● 曉墓地が除雪されていない。一人でもお墓参りをする人がいるのなら除雪すべき。

質疑・答弁

○ 町内会からの要請等により利用頻度が多いところは正月等も除雪をおこなっているが、そうでないところは彼岸の時期のみ

資機材の整備で393万1千円、用地取得で1億1384万3千円等、合計19億391万1千円を増額し、予算総額を114億5534万8千円としました。

除雪を行っている。費用等含めて除雪時期を検討したい。

条例の制定

◆ 公共施設等整備基金条例

公共施設等の改修資金を積み立てる条例を制定しました。

◆ 太陽の手子育て基金条例の制定

子育て支援事業の資金を積み立てる条例を制定しました。

条例の改正

◆ 森林基金条例

平成31年度より創設される「森林環境譲与税」を管理するために改正を行いました。

◆ 災害弔慰金の支給等に関する条例

災害弔慰金の支給等に関する法律が改正されたことに伴い、災害援護資金の貸付けに係る条

件等を変更するために改正を行いました。

◆ 定住宅地の無償譲渡に関する条例

旧庶路保育園舎並びに幼稚園舎跡地を無償譲渡の対象地に加えるために改正を行いました。

◆ スポーツ施設の設置及び管理に関する条例

逍遙公園パークゴルフ場をスポーツ施設として管理・運営するために改正を行いました。

◆ 職員の勤務時間、休暇等に関する条例

国家公務員に準じ、超過勤務命令を行うことができる時間の上限を規則で定めるために改正を行いました。

◆ 職員の自己啓発等休業に関する条例

学校教育法の改正に伴い、自己啓発等休業の対象となる教育施設を変更するために改正を行いました。

◆ 放課後児童健全育成事業に関する条例

学校教育法の改正に伴い、支援員の基準を変更するために改正を行いました。

◆ 水道布設工事監督者等に関する条例

学校教育法の改正に伴い、水道布設工事監督者等の基準を変更するために改正を行いました。

条例の廃止

◆ 新産業創造等事業促進条例

釧路産炭地域総合発展基金が平成30年度末をもって白糠町の助成対象額が取り崩され、以後本町での当該基金を活用した事業が行われないことから条例を廃止しました

質疑・答弁

● この条例にかわるような制度等を制定する予定はないか。
○ 新たな助成金事業を創設する予定。

指定管理者

◇大秋集会所ほか17施設の指定管理者の指定

管理経費の縮減等を目的として、各地域の14集会施設及びウレシパチセ、コミュニティホール、酪農研修センターの管理を各町内会等に指定しました。



コミュニティホール

町道の廃止等

◇西庶路朝日1号通りの廃止及び認定

公営住宅朝日団地の住宅除却に伴い、町道の終点位置等の認

定内容に変更が生じることから、道路法の規定に基づき、既存の町道路線を廃止し、新たに路線を認定しました。

委員の承認

◆固定資産評価審査委員会補欠委員

前委員の逝去により補欠委員として新たに承認しました。

・外崎 富則 氏

教育長の同意

◆教育委員会教育長の任命の同意

前教育長の逝去により教育長として新たに同意しました。

・川島 眞澄 氏

挨拶（抜粋）

「この度、白糠町議会の皆様のご承認を頂き、教育長を拝命することとなりました、川島眞澄と申します。まずもって、二月に急逝され

ました、板谷前教育長様のご冥福を心よりお祈り申し上げる次第であります。

ご案内の通り、私は、平成二十五年四月より三年間にわたり板谷前教育長のもと、指導室長として仕え、公私ともに大変お世話になりました。

その間いずれの時にも、町民の皆様、そして議会並びに議員の皆様には温かくご指導いただき、現在の私があるのも白糠町の皆様のおかげと言っても過言ではありません。

今後は、そのご恩をお返しするべく、町のため、町民の皆様のために心身を尽くして参りたいと考えております。

板谷前教育長の遺志を引き継ぎ、全国に誇れる町の教育を目指し、全身全霊を持って職務に専念するつもりであります」



川島 新教育長

行政報告

◆ALT 孔祥恵さんの離任

外国語指導にあたってきた孔祥恵（コンシャンフオイ）さんが2年間の任期を終えて離任することになりました。

町内にある全ての学校において、中国語はもとより、母国中国の風俗、習慣、文化などの紹介も含め、その指導にあたっていただきました。また、多くの町内イベントや各種団体との交流を行い、広く町民の皆様にも親しまれてきました。

孔さんは、中国江蘇省（こうしょう）のふるさとに戻り親孝行に励んだのち、再び日本語の力を生かせる仕事に就くことを希望しています。



孔祥恵さん

議員表彰

議会議員として15年以上在職し功労のあった者として、全国町村議会議長会より鎌田議員と山吉議員が表彰を受けました。



鎌田議員



山吉議員



3 中河 敏史 議員

新規就農者支援制度について
外2件

1 小野 キサ 議員

脳ドックについて
外1件

4 鎌田 民子 議員

会計年度任用職員制度について
外1件

2 中村 仁志 議員

環境衛生について
外2件

5 福地 裕行 議員

タクシー事業について
外2件

小野議員ほか4名が13件17項目について質問しました。
※一般質問は1人90分以内で、町長に対して広く町政に関する説明を求めます。





Ono
kisa
小野
キサ
議員

脳ドックの現況と今後の取り組みは

町 平成31年度も実施

平成30年度からスタートした国民健康保険加入者（40〜74歳）に対する、特定健康診査のオプション検査として追加された脳ドック検査の実績と検査結果を伺う。

脳ドック検査は、特定健康診査の受診率向上を目的としたオプション検査である。

来年度は町民の関心の高さから希望者が多く、医療機関の協力を頂き、50名の予定のところ95名の受診となった。

そのうち21名が新規の特定健康診査の受診者で受診率向上の成果と受け止めている。

検査結果で要精密検査者は49名中13名（40〜69歳）、46名中18名（70〜74歳）で病気の早期発見・早期治療につながったことは、大変重要なことと考える。

平成31年以降の取り組みの考えを伺う。

多くの町民が受診できるよう取り組んでいく考えであるが、特定健康診査と脳ドックを合わせて受診できる医療機関が限られているため、医療機関と協議しながら検診体制の充実につなげていく。

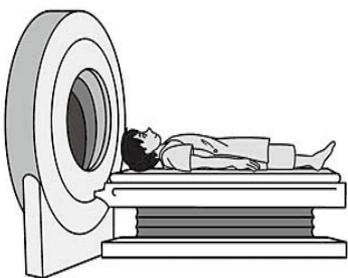
平成31年度の募集は平成30

年度の受診者を対象外とし、120名を予定している。

国民健康保険加入者以外の者に対する考えを伺う。

町民の健康づくりと脳ドック検査に対する関心の高さや病気の早期発見・早期治療の点からも、多くの方が受診できるよう取り組んでいきたいと思っている。

しかしながら、医療機関や人数に限りがあることから、実施2年目となる平成31年度以降の受診状況や検診体制等を検証し、今後検討していく考えである。



要精密検査結果からも、年齢と共に検診が重要と考えられる。健康寿命の延伸のためにも特に後期高齢者の受診が出来るよう人数枠拡大に力を

入れるべきと思うが考えを伺う。

高齢者の健康維持を願い、平成31年以降の状況・体制等を検証しながら目的である受診率向上に努めていく。

「がん検診」の状況は

町 受診率向上をめぐり

がん検診の受診率向上に向けて種々の対策に取り組んでいるが成果は上がらない。

そこで、関心が高く受診希望者の多い状況から考えて、今後各種がん検診と脳ドックを複合的健康診査とすることが、「がん検診」の受診率向上につながると思うが考えを伺う。

各種がん検診は、集団検診と併せて、地区・回数増・土曜・日曜など受診しやすい工夫や電話による受診勧奨などを行っているが、向上に結びついていない現状である。

しかし現在脳ドック検査と各種がん検診を複合的に実施できる医療機関がない状況の

ため、受診率の向上に向けて、病気になってから治療するのではなく、早期発見・早期治療のため、検診の大切さの周知・啓発活動に取り組む理解を深めていく。



今後の取り組みの具体的対策を伺う。

早期発見の大切さを周知するために、国民の4人に1人がかかり、3人に1人が死亡などの情報発信や健康教室の開催、また保健推進員の協力をいただき、町内会・各種団体・事業所などに出向き大切さを説明することやイベントにおいてチラシの配布などにも取り組んでいく。



中村 仁志 議員
Nakamura hitoshi

アルミ缶、スチール缶のごみ袋の 検討結果について

町 新たなサイズ の指定袋の検討を していく

最近、高齢者世帯の方からアルミ缶、スチール缶のごみ袋を小さいサイズにしてほしいとの意見があった。その後、の検討結果について伺う。

白糠町環境衛生会などの各種団体への聞き取り等により町民皆様のニーズ調査を行い、新たなサイズの指定袋を検討していききたい。

旧庶路小学校の跡地利 用とリンクについて

町 跡地利用はしない リンクは廃止

今後、旧庶路小学校の跡地を利用するのか。またスケートリンクが使用できなくなっているが、リンクの設置について伺う。



旧庶路小学校スケートリンク

跡地については、更地になる予定であり、他の教育施設等の用地として活用する考えはない。

平成31年4月1日をもって、普通財産に引き継ぐ方向で事務を取り進めたいと考えている。

また庶路スケートリンクについては、町から教育委員会に対して事務委任され、スポーツ施設として管理している。庶路学園からの距離的な事や後の管理がしづらくなる

ことが想定され、学校付近の土地は、公認スケートリンクの面積が難しいこと、また学校のグラウンドに設置することも検討したが、春にはグラウンドが乾きづらいため、グラウンドの利用に支障が出ることから、新たな設置については断念した経過がある。

昭和52年の設置から41年が経過し、老朽化が著しく施設機能を維持するためには、大規模改修が必要になることから、しかるべき時に廃止を考えている。

戸別受信機が必要と思 われるが

町 導入機器の選定に ついて検討中

屋外防災無線については、九州北部豪雨や西日本豪雨といった大雨災害で町民に速やかな情報提供が出来なかった反省がある。また道内でも16年の連続台風の際、帯広市などで雨音や増水した川のごう音によって広報車からの避難指示がかき消され情報伝達の在り方が課題になった。

また地震避難情報も同じと思うが、今こそ確実な情報伝達に戸別受信機が必要と思うが考えを伺う。

現在、防災行政無線の屋外拡声スピーカー40基を整備している。屋外スピーカーだけでは十分に伝わらず、気象条件や気密性の高い建物内では、全国的に聞こえづらいという課題が提起されている。

正確な情報を速やかに伝達する屋内と屋外、双方の伝達設備の整備が喫緊の課題なので、戸別受信機の低廉化や機能改善を鑑み、現在、導入危機の選定について検討している段階なので、速やかに進めることとしたい。



280MHz戸別受信機のラインナップ



戸別受信機

デジタル電波受信機がかかりませんが、電波受信料は無料



Nakagawa Toshitumi
中河 敏史 議員

農業支援策は

町 総合的な支援の構築に努める

【白糠町には新規就農者支援制度が無い、釧路管内では釧路町を除く一市五町村が制定しており、わが町でも迅速に対応すべきである。

【農業の新規就農者に対する支援は国の制度を最大限に活用し、関係機関と連携し進めているが、将来を見据え、地域をあげて対策を講じなければならぬ。

31年度に向け新規就農者支援制度を創設し、農業経営に意欲を持った方が就農しやすいように態勢の整備を進めていく。

- 内容は「新規就農者支援事業」とし、次の5項目とする。
- 1 新規就農者に対する経営支援
 - 2 施設整備等に対する支援
 - 3 農地の取得若しくは賃貸借に対する支援
 - 4 住宅の家賃に対する支援
 - 5 農業実習生の受け入れに対する支援
- 農業の担い手対策は喫緊の課題から関係機関とも連携を図り、既存の農家も含めた総合的な支援の構築に努める。

大規模畜産施設への助成が必要

町 農協と検討を重ねていく

【現在町内において、共同経営による大規模な畜産施設の建設が進められている。合同会社FISEEDに適用した助成措置等が必要である。

【町内の酪農家4戸が農業法人を設立し、TMRセンターの隣接地において、平成31年度、32年度の2カ年で町内最大規模となる酪農施設整備を予定している。現状では事業採択にむけ、釧路丹頂農協と連携を図りながら事業推進に努めている。

酪農施設を建築する農業法人については地域農業の持続性の確保、雇用創出、後継者や新規就農者の研修牧場など地域のモデル農場となるような取り組みをすること、地域全体の農業振興に寄与することが具体化した際には釧路丹頂農協と検討を重ねていく。

農業へはどのような支援を行ってきたか

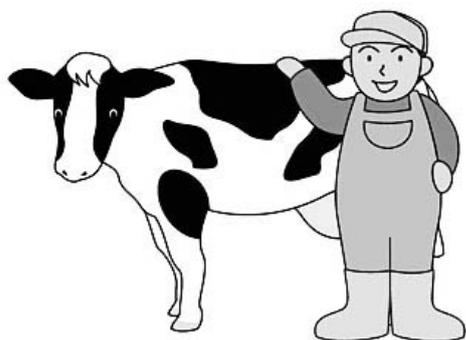
町 町独自の支援策も構築してきた

【わが町は事あるたびに一次産業の振興と再興を掲げてきた。農業についてどのような施策を行ってきたのか、また、成果は。

【農業施策は国、道の政策に呼応しての支援のほか、町独自の支援制度を構築してきた。

主なものは、中山間地域等直接支払交付金事業等、堆肥の有効活用、鳥獣被害対策など地域が抱える課題解決のため取り組まれている。

明渠排水の維持管理では事業費の25パーセント、家畜糞尿処理施設の整備を実施した農業者に対し負担25パーセントのうち10パーセントを支援、道管草地整備事業では暗渠排水整備に対し自己負担25パーセントのうち8・75パーセントを支援することにより生産基盤の整備の促進や農業生産コストの低減を図ってきた。



た。

町の政策では、TMRセンターの建設に対し、平成26年度から3年間で総額5000万円の支援を行った。

センターの稼働により作業効率の向上、経営の合理化が図られ乳量が増加傾向にあり、酪農の持続的な発展に大きな役割を果たしている。

野菜生産の振興では、白糠町野菜生産組合への支援をはじめ、農業支援員の任用や農地の確保などの体制づくりも行い、平成31年度からは、新たに野菜生産農家への支援に取り組んでいく。



鎌田 民子 議員
Kamada tamiko

新たな制度の導入で非正規職員の待遇はどうなる

町 不利益が生じないように適切に対応する

問 「会計年度任用職員制度」が2020年4月から施行される。内容について伺う。

答 え、一般的にこの制度を創設して常勤職員との均衡を図り、採用、服務規律等に関する制度の明確化を進める。

問 全国的に地方公務員の臨時・非常勤職員の著しい増加にともない、同一労働・同一賃金が叫ばれる中で、同様の業務に従事している常勤職員と比較して不適切な勤務条件の格差があるなどの課題が指摘されてきた。これらを踏ま

え、現在の正規職員と、臨時・非常勤職員（非正規）の人数を職種別に問う。

答 常勤職員数は171人。（平成31年2月1日現在）臨時・非常勤職員（非正

規）は、平成29年度実績で議員を除く特別職非常勤職員は224人、一般職非常勤職員109人の合計333人。（職種別人数は別表）

別表

特別職非常勤職員		一般職非常勤職員	
職種名	人数	職種名	人数
医療関係	18人	事務補助職員	13人
支援員等	7人	保育士	22人
その他職員	199人	給食調理員	6人
		看護師	2人
		清掃作業員	24人
		図書館職員	1人
		その他職員	41人

問 恒常的に公務を行っている非常勤職員は、行政の重要な役割を担っている。当面のスケジュール等は。

答 6月7月にかけて制度内容を説明し、条例制定は9月頃を予定している。

問 賃金や待遇が悪くなるのではとの懸念や不安があると思うが、どのような職種であってもそのようなことがあってはならない。

答 現在の非常勤職員が制度移行になっても不利益が生じることがないように適切に対応する。

問 非正規職員の処遇改善等の向上をはかる機会としての新たな財源は国が責任を持つよう要請すべき。

答 増加費用の財源手当は国が検討している。交付税措置についても働きかけをする。

問 処遇改善として期末手当支給、退職金等はどうなる。

答 期末手当支給は職種によって変わり、自治体の判断となる。退職金は、正職員と一緒にの考えに立てば市町村の退職

手当組合に入ることになる。各自自治体の考え方もあり、それらを含めて検討する。

受動喫煙から守るため 検尿キットの配布を

町 より一層啓発活動に取り組み

問 埼玉県のある自治体では、保護者によびかけ、小学生を対象に「検尿キット」を配布し、尿中のニコチン代謝物質コチニン濃度を測定し、どの程度受動喫煙の被害にあっているか調べている。高い値が出た場合は小児科を受診させるよう保護者に知らせているという。子どもたちの健康を守るため、本町でも検討し実施してはどうか。

答 検尿キットでのコチニン濃度検査は、家庭での子どもたちの受動喫煙を防ぐため、保護者の方々への分煙や、禁煙の動機づけと認識している。

引き続き「未成年者喫煙防止講座」への働きかけや、家庭での分煙等についての啓発活動に取り組んでいく。



Fukuchi
福地

hirochika
裕行 議員

タクシーが不便

町 タクシー会社と継続して協議する

町がタクシー会社に補助金を交付し最小限の運行確保という一応の体裁は保ってきたが、町民、特に交通弱者は未だ不便をかこつていて全く不十分である。移動手段の確保は生活の原点、いつまでもほおかぶりせず先頭に立って更なる対策を急ぐべきである。

会社の収支は厳しい状況だが、乗務員の新規採用もあつたので、今後は週末の時間延長の通年化や平日の時間延長も検討すること。継続して協議を行う。

町民は今実際不便を被つているが、企業努力だけでは限界があり、町民が望む23時頃までの時間延長にはならない。更なる手立てが要るのではないか。まちが前面に立つ先進地の事例も参考に不便の解消に努めるべき。協議の内容は、6名体制になったので5月頃には営業時間延長の見通し。

木材の供給が心配

町 安定的な確保に協力する

神戸物産のバイオマス発電所が本格稼働し、新年度以降の関連会社などによる排温水活用による栽培や馬肉加工等の新たな事業展開にも期待が掛る一方、将来に向けて燃料である未利用間伐材の潤沢な供給が疑問視されている。また、わずか数人とは言え町民が雇用されていることもあり、万が一にも発電事業が立ちゆかなくなったら元も子もない。



バイオマス発電所

河畔林の活用や一般木材の原料化などあらゆる方策を検討し、町としてもその安定的な確保に協力を惜しまない。

未処理のままの風倒木が目まかりならない。

町とも協議しながら取り進

町 町内会と避難協力体制を協議する

避難体制の確立を

町役所が机上で計算するならばにはいくらでも木材はあるが、果たして全道的な必要量を山から出せるかが疑問である。

現状では供給できるものと判断するが、協力もしていく。

町内会と避難協力体制を協議する

マグニチュード9クラスの17世紀型超巨大地震の発生が危惧される切迫した状況である。間断無き啓発、啓蒙に努めると共に、高齢者や障がい者など災害弱者の避難対策が急務である。

「自助」と共に「共助」によって避難する協力体制の確保を図っている。防災意識の向上にも繰り返ししっかり意識を用いていく。

高齢化率も釧根管内で断トツだが、一朝有事の際に確実に避難させられるか甚だ疑問である。

町向こう3軒両隣が「共助」

の基本。繰り返し体制の強化に努める。

今頃この場でこんな議論をすること自体本末転倒である。きちっとした体制を構築しなければならぬ。

町内会が核であるので組織での活動強化に努める。

町内会主体の自主防災組織の編成を急ぐときである。

町内会ともう一度早急に協議する。

莫大な事業費を投入し防災行政無線を整備したが、計画段階の当初から指摘していたように効果が全く不十分である。戸別受信機の整備を急ぐべきであるが、用途、事業費は。

近年、機器の低廉化と性能の向上策が図られてきているので、速やかに整備するよう取り進める。

今、機種を選定中だが、有利な財源を確保し、平成31年度中に補正予算対応し、実施設計に入りたい。

今年4回、Jアラートの作動試験を行っているが、町民への周知が不足している。折角の機会を活かすように。

今後、啓発、啓蒙に努める。

過

去の質問・質疑の中から、あの質問等がその後どうなったのかを調査する

「追跡 アントキノシツギ」

今回は、平成23年第3回定例会における小野議員の一般質問のほか、2件の質問を追跡しました。

追跡① スポーツ助成条例等は適用拡大が必要

●平成23年第3回定例会
小野議員の一般質問

当時の質疑・答弁

●全道規模以上の大会に出場する際に適用となる、スポーツ振興助成条例並びに文化振興助成条例の規定について、現在は交通費の助成がJRと貸し切りバスを利用した場合に限定されている。最近の交通事情及び交通手段の実態から、自家用車利用等に対しても助成が必要と思うが考えを伺う。

●JR等に限定して助成対象としている理由については、子ども達の安全と万が一の保障を最優先に考えての事。

しかし、応援するために同行する方々からは、子ども達を自家用車に同乗させられないので不便という声もある。交通事情等を考えると、最良の参加手段を今一度議論すべき時にきていると思われる。管内市町村の状況を踏まえ、町内の関係団体等の意見を伺っていく。

○追跡の結果

翌年度から

は自家用車

も助成対象

他の市町村の助

成状況や関係団体からの意見を踏まえ、平成24年度からは自家用車も助成対象に加えられた。会場までの最短距離にキロ当たり37円を掛けた額の二分の一を助成しています。

追跡②

ふれあい公園のトイレを改善せよ

●平成27年第1回定例会
岡嶋議員の一般質問

当時の質疑・答弁

●西庶路ふれあい公園の公衆トイレは、手すりや柵がなく非常に使いにくい。水洗化と併せて改善すべきとの声もある。考えを伺う。

●町内の公園内トイレ整備は、

事務を取り進めている。

○追跡の結果

計画どおり、平成27

年度に水洗化

平成27年に社会資本整備総合交付金を活用し、水洗化とバリアフリー化の整備を実施しました。

ふれあい公園内のそのほか2カ所のトイレについては、水洗化にすることで冬期間の使用が困難となることから、高齢者の利用が増加しているという状況も踏まえて、平成29年7月にトイレ内に手すり等の補助器具を設置しています。

追跡③

温浴施設の無料券を配布しては

●平成29年第2回定例会
小池議員の一般質問

当時の質疑・答弁

●温水プールに併設している温浴施設は町民から高い評価を受けているが、費用の面から頻繁に利用できないという声もある。高齢者福祉の一環として、一定の年齢以上の高齢者に無料の利用券を配布してはどうか。

●町民の健康づくりと高齢者福祉の観点から、利用実態や他市町村の事例等を踏まえながら指定管理者とも協議し、検討していきたい。

○追跡の結果

平成30年7月から無

料サービスを開始

平成30年7月より満70歳以上の町民の方を対象に、第2・第4金曜日の10時～16時までの入浴利用を無料としています。



昨年度より計画的に順次整備を行っている。

ふれあい公園の3カ所のトイレは平成27年度に整備を計画している。水洗化はふれあい児童館側のトイレを国の補助制度を活用したバリアフリー化と併せて改修を行う計画で、補助事業の要望などの



▶手すりを設置したトイレ

拝啓 委員会もやっています。

No. _____
Date

総務文教常任委員会 2月5日・19日 2回開催

ふるさと納税 30 億円突破の見込み！

役場の担当からふるさと納税について説明を受けました。

○平成 27 年 10 月にふるさと納税を開始して以来、27 年度は 1 億 5700 万円、28 年度は 8 億 1100 万円、29 年度は 18 億 5400 万円、本年度は最終的な補正予算額として 32 億を設定する見込みで、右肩上がりです。寄附額が増加している。

○2月2～4日の三日間で東京都内のレストランにおいて、ふるさと納税感謝際を実施した。約 1 万 8000 件の申し込みの中から 246 組 492 名を招待し、白糠の食を堪能してもらった。

多くの方から白糠に行ってみたいという声をいただくなど、盛会に終わった。

(小野、折出、岡嶋、山吉、石田、富田)

産業厚生常任委員会 2月7日・28日 2回開催

ヤナギの調査研究事業に対して委員会報告を実施！

2月7日に開催した委員会において、平成 20 年度から町が実施してきたヤナギの調査研究事業に対して、産業厚生常任委員会として一定の結論を出すべきという意見が出されました。

2月28日の委員会で報告内容について協議を行い、中村委員長が3月5日の第1回定例会において次のとおり報告を行いました(所見のみ掲載)。

(中村、立石、中河、鎌田、福地、小池)



委員会報告
中村委員長

本事業は、白糠町創生総合戦略において「早生木ヤナギを活用した新産業の創出」として、平成 31 年度までを目途に数値目標が設定されているが、きわめて達成率が低く、早生木とはいえ長期化する事業であることは認識するが、これまで国の補助を活用しながらも、多くの調査研究費と労力を費やしてきた事業である。

新産業・雇用の創出の可能性については、町内の民間企業によるヤナギおが粉の製造と菌床メーカーへヤナギおが粉を供給する方向性へと絞られ、ヤナギ栽培についても町内河川流域に自生するヤナギの

活用の可能性が調査結果で示されており、将来を見据えた事業計画の検証、見直しが必要な時期と思われる。今後、ヤナギおが粉の製造と販売が民間企業に委ねられることにより、本委員会の調査に区切りをつけるところである。

ヤナギの持つ多様な可能性は十分認識するものであり、シイタケ菌床栽培に使用される広葉樹おが粉についても将来入手難が懸念されるなか、代替材料としてヤナギおが粉の需要は見込まれるため、これまでの貴重な調査研究結果をもとに、新産業・雇用の創出には迅速に取り組むよう意を用いられたい。



植林したヤナギ畑

※()は委員会に所属している議員名です。なお、上記の他に議会運営委員会を3回、広報調査特別委員会を2回開催しているほか、新年度にかかる予算審査特別委員会(2ページ参照)を3日間にわたって行っています。

古

場

◎陸上少年団コーチ

菜

月

白 糠のまちづくりにかかわる人を紹介する「傍聴席から」。

初めての女性単独インタビューとなる今回は、白糠町陸上少年団でコーチを務めている古場菜月さんにご登場いただきました。

少年団の泣き虫少女が コーチになった

—陸上を始めたきっかけから教えてください。

【古場さん】あいまいなんですけど、運動がそんなに得意ではなかったんです。でも走る事だけは、なんだろう、自分の中で出来る方だったんで、マラソンも結構良い順位で走っていたので、たぶん母が「陸上やってみればいいんじゃない」っていう、そういう感じで少年団に入ったのがきっかけだと思います。

—少年団のコーチになった経緯は？

【古場さん】少年団から中学、高校と陸上を続けていて、高校の部活動を引退した後も走りたかったんですよね。それで高校3年の冬くらいに少年団の斉藤監督に話をして、練習に参加させてもらったのが最初です。

その後、短大に入ってから、働いてからも子ども達と楽しく走っている感じです。

—当初はコーチになる気はなかった？

【古場さん】将来は保育士になりましたかったので、子ども達と関わられたらいいなという思いがありました。その時から子どもが好きでしたから、一緒に走れたら楽しいなあと思っていました。何か手助けできたら良いなあと考えていました。

—なんとなくコーチとして現在に至るんですけど、もう10年くらい昔の話になるので、はつきりとした経過はおぼえていないんです(笑)。すみません。

—コーチとして大変な事は？

【古場さん】小さな子どもに話しを聞かせるとか、集団をまとめるのが凄く大変だし、教えることも言葉とかをかみ砕いたり、見本を見せたりとか、本当に難しいです。

—今は何歳くらいの子どもを教えていますか？

【古場さん】少年団には今年長組の6歳から在籍している、私は年長の子と小学校1年生を中心に教えています。

—練習の後半は全体と一緒にリレーとかをやるので、最後は全員の子と関わりますけど。

—そこまで小さい子を教えるのは大変ですね。

【古場さん】少年団全体では30名近くいますけど、自分が受け持っている6歳と1年生の子を合わせても5、6人しかいないので、目が届く人数だし、普段子どもと関わる仕事をしていますので、そういう事もあってなんとかやれているのかなと思います。

—コーチになって良かった事や楽しかった事は？

【古場さん】やっぱり大会とかに行って一生懸命走っている姿を見ると、なんか親でもないのに「頑張ってる」と思ったら、泣けるくらい嬉しいです(笑)。

—そういう姿が見れて本当に良かったと思うし、子どもが好きというところがあるから練習の時とかもくだらない話をするのも楽しいし、練習を頑張っているところもそうだし、大会で活躍しているところもそうだし、そこに関わらせて凄く良い経験をさせてもらっていると思っています。



こば なつき
古場 菜月さん

27歳
趣味:いやー、なんですかね、つままない女なんです(笑)。お買い物やライブにはよく出かけるかなあ。お母さんとも一緒に(笑)。

走る、白糠、今、昔

—自身が少年団だった頃はどうでしたか？

【古場さん】いやー(笑)。いやーって言ったらあれですけど、いつも泣いて走っていたよねって言われます。

昔から負けず嫌いで、4年生で入団したんですけど、当時最年少に近い自分は負けで当たり前なのに、勝手になにか悔しくて泣いていたし、人数が足りないから白糠の駅伝大会に出ることになって、それで駅伝用の練習についていけなくて、また泣いていたっていう(笑)。



子ども達の 頑張りが 泣けるほど 嬉しい。

これからも故郷を愛する、
“次代の古葉菜月”の育成を
よろしく願います。

—よく辞めませんでしたね。
【古場さん】練習もつらいし、
高校までは何で走ってついで
るんだらうっていう思いはあ
りましたけど、振り返ってみ
てここまで続けているってこ
とは、嫌いではなかったんだ
と思います。好き？って聞か
れたら好きとは言えないかも
しれませんけど（笑）。

—少し話が変わりますが、少
年団の子ども達は挨拶がしつ
かりしていますね。
【古場さん】そこは私が少年
団の頃から斉藤監督に口酸つ
ばく言われていました。
自分が大人になってから良
かったと思うところで、挨拶
が苦手な人っていると思うん
ですけど、そこはすぐく覚え
ています。それと、靴の踵は
踏むなっていうのも言われま
した。そこは昔も今も変わっ
ていないですね。

—これからの少年団に望むこ
とは？
【古場さん】いつまでも続け
てほしいと思います。ただ、
今の監督がいなくなると厳し
いとは感じています。
—他の競技も指導者の問題は
内包しているようですね？
【古場さん】指導もそうです
けど、大会の運営とか、本当
に大変なことなので、誰にで
もできることではないし、難
しいことだと思っています。

—町についての話になります
が、白糠の良いところは？
【古場さん】これといったも
のがないかもしれないけど、
でも居心地がいいですよ、
やっぱり。どこか旅行とか遠
征から戻っても「ああ帰って
きた」って感じですかね。故
郷というんでしょうか。
—白糠の残念なところは？
【古場さん】ご飯屋さんか少
ないところですかね。友達と
会うとなつても選択肢が少な
いですよね。今は大人になつ
たので居酒屋さんとか行けま
すけど、中学とか高校の時は
白糠ではあまり出歩いていな
かったと思います。

—最後に、行政に求めること
はありますか？
【古場さん】子どもと関わる
仕事をやっていて、遊べるこ
ろが少ないと感じます。
「外で遊んできなよ」ってお
母さんとかに言われても、遊
びに行く公園が少ないとい
うか。子どもの体力がないと
言われていますけど、遊べる
場所がないから余計にそうな
ような気がします。
役場前の公園遊具も新しく
するらしいんですけど、釧路
昭和のイオンの横にある公園
もつとあるといいですね。
（2月19日町内勤務先にて）

◆◆取材後記◆◆

本町では多くのスポーツ指
導・運営が古場さんのような
ボランティアスタッフが支え
られています。多様性と利己
的性質が混在した現代社会の
中で、プライベートの時間を
削り、子ども達に向き合う事
がどれほど困難で尊いことか
「言うは易し行うは難し」
指導する姿を見て改めて感服
いたしました。

また、古場さんの自他共に
認める極度の童顔から流れ落
ちる汗と涙は、自身がそう
だったように運動技能の向上
と併せて、子ども達の心に白
糠への郷土愛も芽吹かせてく
れているものと思います。



白糠いい店 こんな店

今号でご紹介するのは、喫茶店ながら常連客のわがままな食事の注文に全力で応える「アズハウス」さんです。

お店は南通り商店街の再開発に合わせて、店主の稲川まちこさんが平成元年に開店。当初はコーヒーや甘味物、軽食を提供する正統派喫茶店だったものの、平成16年頃、ある常連客の出前要求から営業形態が一変。連日出前の注文が入るようになり、加えて注文内容も「パスタに唐揚げとサラダをそえて」「インスタントラーメンとおにぎり」「体調が悪いからおかゆ、作って」等、次第にエスカレート。

しかし、そんな注文で逆に燃えあがるまちこさん。奇々怪々な注文をことごとく返り討ちに、最近では普通のカレーやスパゲティのオーダーではもの足りなさを感じるのか。

メニュー外の要望は来店による注文でも極力応えてくれますが、未体験の方には、まずは深いコクとほのかな甘みが人気のカレースパゲティ(税込500円!!)をおススメします。

- 住所：白糠町東一条南一丁目
- 電話：(2) 3833
- 営業時間：10～19時(日曜定休)



▲人気のカレースパゲティ
▲店主の稲川まちこさん

【おしらせ】アズハウスさんからのご提供～来店により3名以上で料理をご注文の際「議会だより見たよ」で、コーヒーを各一杯サービス。(本年5月末迄。お一人様一回限り)



あしがき

広報改革のお手伝いをした4年間。専門誌等に掲載され、道外の議会からも照会を受ける広報紙となりましたが、現広報委員と富田議長、更には故丸子前議長だから取り組むことができた読者目線での改革だったと感じています。

また、ここに至るまでには多くの障害がありました。乗り越える力をくれたのはいつも町民皆様からの声であり、次のようなお手紙でした。「このたよりが届くのがだんだん楽しみになってきています。見た事のある青年を身近に感じて、私も頑張らなければという気持ちにさせてくれます。たよりを大事にしています。ずーっと続けてほしいです(抜粋)」(60代女性)

広報に携われた御縁と町民皆様からのご声援に心より感謝するとともに、一読者として議会広報の更なる進化に期待しています。(事務局)



今号の表紙



今号の表紙は、インタビューにもご登場いただいた古場菜月さんです。陸上少年団の練習の合間(毎週水・金曜)に、指導している子どもたちと一緒に Nice smile をいただきました。少しだけ背が高いのが古葉さんです▼裏表紙にご登場いただいた「アズハウス」さん。お弁当やオードブルの注文等にも対応していますが、実はご当地グルメの「たこつぶステーキ丼」も提供しています。遠方からの来客等に白糠の味はいかががでしょうか。